

今月の子ども

○今月の子ども（恐竜と遊ぶ子どもたち）

中園孝信（撮影）



子どもは恐竜が大好きです。恐竜の知識が豊富です。おとなが間違っただけを言う「違うよ。」と指摘してくれます。約2億5000万年前、まだ地球上は陸続きの一つの広大な陸地でした。恐竜は陸伝いに世界中に移動することができました。日本からも多くの恐竜の化石が出ています。このアンキロサウルスは白亜紀後期、今から約7000万年前に生息していたそうです。目の後ろにピラミッド型の骨が横に出っ張っているのが特徴です。豊橋市自然史博物館・野外恐竜ランドの風景です

今月の詩

ゆあさとしお（選・文）

○この詩に出てくるミミコは幾つぐらいであろう。4～5歳あたりだろうか。

「とうちゃんの下駄なんか / はくんじゃないぞ」と釘をさした父親に対して、「とうちゃんのなんか / はかないよ」「とうちゃんのかんこをかりてって / ミミコのかんこ / はくんだ」と屁理屈をいって切り返したミミコ。

その幼い娘の反抗を、とまどいながらも目を細めて見ている父親のまなざし。「赤い鼻緒の赤いかんこ」と並んでいる「かぼちゃ」。赤と緑の対照。タイトルの「ミミコの独立」が印象的である。

斎藤喜博（1911-1981 教育実践家）は、「教育は、児童生徒が教師を必要としないように育てる、はかない仕事なのだ」という意味合いのことをどこかで言っている。

これは教師の仕事を評した言葉だが、親の子育て

ミミコの独立

山之口貌

とうちゃんの下駄なんか
はくんじゃないぞ
ぼくはその場を見て言ったが
とうちゃんのなんか
はかないよ
とうちゃんのかんこをかりてって
ミミコのかんこ
はくんだ と言うのだ
こんな理屈をこねてみせながら
ミミコは小さなそのあんよで
まな板みたいな下駄をひきずって行った
土間では片隅の
かますの上に
赤い鼻緒の
赤いかんこが
かぼちゃと並んで待っていた

もこれとよく似ている。親は、子どもが親を必要としないように育てるのだ。

子どもが自分の頭で考え、行動できる独立した存在になる、それこそが理想の子育てということになるだろう。

*山之口 繭 1903- 1963、沖縄生まれの詩人。197 編の詩を書き、4 冊の詩集を出した。

I 子ども研究ノート

自主協同学習 —子ども支援の学習集団研究ノート

高旗 正人（岡山大学名誉教授）

○自主協同学習とは

自主協同学習とは、各学習者が自主的に学習に取り組みかつ、複数の学習者の協同活動によって課題を達成していく形態の授業である。昭和二十年後半から三十年代にかけて、このような授業形態が新しい教育の在り方として共感を呼び、日本の一部の学校で実践が試みられた。日本社会の封建遺制を克服し、民主的社会を發展させること、直接的には子どもたちの学校授業への積極性の覚醒が狙いであった。この自主協同学習は賛否両論の中で、賛同者の努力にもかかわらず、ネーションワイドにまでは普及しなかった。しかし、2020年からの学習指導要領で、アクティブ・ラーニングが全校種の授業で取り込まれる事になると、自主協同学習はその一つの在り方として、今注目されている。

○自主協同学習論の骨子

授業を成立させている要因は大きくは学習内容、学習主体、集団構造の三つである。伝統的には教師・教材・学習者の三者とされたが、授業がおこなわれる学級は、教師と複数の学習者からなる集団である。集団過程としての授業は、当然、各授業の固有の集団構造から、影響を受ける。このことから集団構造を授業の構造要因から除外する事はできない。K. Lewin の古典的研究がすでに、授業の人間関係が学習効果に影響を及ぼすことを指摘している。1930年代のアメリカの人間関係論 (Human relations) も、課題遂行集団のリーダーシップの在り方が、成員の意欲を左右する事を突き止めた。これらの研究成果は、授業の開発研究が集団構造を研究対象として位置づけなければならないことを物語っている。

授業過程の集団構造が、学習者の学習意欲を規定する要因の一つ だとなると学習者の学習意欲の研究も学習内容のみに対象を限定出来ない。授業過程の集団構造に目を向けなければならない。そのようにして生まれた「授業の社会学 (Sociology of Teaching)」は、授業の実践研究を大きく進展させた。「授業の社会学」は、小集団社会学、グループダイナミクス、社会心理学、心理学的社会学、行為の理論などの概念を精力的に取り込み、それらによって授業の理論体系を構築しようとした。筆者の場合は、とりわけT. パーソンズの構造機能理論やA. エチオーニの組織リーダーシップ論、C. A. ギッブのリーダーシップ論などに負うところが多かった。

パーソンズ理論からは、AGIL 図式の独自の解釈から授業改造の視点を次のように位置づけた。

A 次元：学習の方法の、伝統的な受動的学習方法から積極的な学習方法への転換

G 次元：授業の目標と内容の社会化

I 次元：授業の小集団と学習者による授業運営のための役割の構造化

L 次元：学習集団の集団規範を競争学習から協同学習に変容

パーソンズは社会統制 (social control) を「許容」・「支持」・「相互作用の拒否」・「状況の操作」の四

つに分けた。この視点から授業形態を見ると、伝統的な教授における社会統制の型は、「相互作用の拒否」や「状況の操作」という類型になり、自主協同学習は「許容」、「支持」優位となる。まちがいや失敗を否定するのではなく許容し、よいところを見つけて賞揚し支援する学習集団である。L次元の集団規範も、自主協同学習では、その理念が各学習者に内面化され学級集団に制度化されねばならない。

○授業実践による開発

理論と実践の融合をめざして昭和40年代には授業実践の場を開拓した。その中でもっとも恩恵を受けたのは、岡山県の勝央中学校の授業改革であった。この学校は昭和30年代に起こった「学校の荒れ」がきっかけで、教師中心の一斉教授から生徒中心の自主協同学習への転換に全校体制で取り組んでいた。昭和47年頃、一年ぶりに学校を訪問すると校長がかわっていた。新しい若い校長は私が挨拶を終えると即座に、本校がやっている自主協同学習には反対である。授業をのぞくと子どもばかりが、わいわいがやがや、やっており、教師は窓際でSLの走るのを見ている。教師が教師の本分を放棄するような授業は、生徒たちの成績が下がるような事があれば直ちに止めさせる。今は、成績がなぜか上がっているので、しばらくは猶予する、とのことであった。ところがこの校長の教育方針は一年間で180度転換した。「これからの中学校の授業は自主協同学習でなければならない」と。校長は柔軟性のある優れた管理職であられた。この校長が他校へ転勤された後も私は、自主協同学習論の実践体系を完成させるための検討をこの中学校で続けることが出来た。

○学習集団形成度の測定

授業過程が教師中心の一斉教授形態から学習者中心の協同学習形態に転換したとき、はたして子どもどうしが相互に支援しあう学習集団に変容しているか、学習意欲は向上しているか、学力は向上したか、などを客観的に測定する測度が必要になってくる。N. A. フランダースや R. オーバーらの組織的観察法、因子分析法による学習意欲や集団形成度を質問紙でテストできる測度を作成して学会に問うた。

参考文献

1. 高旗正人編著『講座 自主協同学習（全三巻）』明治図書出版、昭和56年。
2. 高旗正人『パーソンズの教育規範』アカデミア出版会、平成8年。
3. 高旗正人編著『教育実践の測定研究－授業づくり・学級づくりの評価－』東洋館出版、平成11年。
4. 高旗正人『回想 自主協同学習によるアクティブ・ラーニングの開発』ふくろう出版、平成30年。

II 実践報告

実践報告 I

「放課後児童クラブの可能性」

和田奈々子（NPO 法人東京学芸大こども未来研究所）

NPO 法人東京学芸大こども未来研究所は、東京学芸大学の「知」である子どもに関わる「ヒト」「モノ・コト」「コミュニケーション」を社会に発信する NPO 法人です。私は現在、東京学芸大学より委託を受け実施している「東京学芸大学放課後児童クラブ」の運營業務に携わっています。

「東京学芸大学放課後児童クラブ」は東京学芸大学が文部科学省の特別経費を受け「附属学校等と協働した教員養成大学による『経済的に困難な家庭状況にある児童・生徒』へのパッケージ型支援に関する調査研究プロジェクト」の研究開発を行うため、東京学芸大学内に設置された学童です。

対象は東京学芸大学附属小学校に通う1～3年生で、保護者が共働きであるなどの理由により、日中に一定時間、保育を受けることができない児童です。大学の広大な敷地の中、豊かな自然に恵まれた環境と、大学の知を存分に活用し、児童の安全安心で豊かな放課後活動を支援しています。

東京学芸大学が教員養成大学ということから沢山の学生達が、実践的な教育支援を学ぶために放課後児童クラブに関わっています。また、東京学芸大学内にある、一般社団法人教育支援人材認証協会の認証する「こどもパートナー」や「こども支援士（放課後アフタースクール）」を受講した地域の教育支援人材の方もその知識を活かし、放課後児童クラブにて活動をしています。その他にも様々な知識と経験を持つ大人が関わることで、児童の活動の幅と視野を広げてくださっています。学生が経験していない育児や社会経験の知識や感覚を学生に伝えることも、我々大人の大切な役割だと考えています。

放課後児童クラブでは、日々の生活を通して児童の自立と協調性、自主性を育てていくことを目的としています。そのため、適切なこえかけと適度な介入を心がけ、自身での成長の機会を大切にしています。また、1日のスケジュールを明確にし、見通しを持って1日を落ち着いて過ごせるようにしています。

放課後児童クラブでの過ごし方をご紹介します。

1 平日の予定

平日は登所してすぐに着替えをします。学年ごとに下校時刻が異なるので、学年ごとにミーティングをし、その日のスケジュールと出欠の確認をします。毎日、リーダーとサブリーダーを決め司会と進行を児童が行います。おやつ準備や片付け・掃除は班ごとに協力して行います。

14：00 下校（登所）

14：30 ミーティング（学年ごとに実施。）

14：40 自由時間（プレイパークや室内で遊ぶ。登所時間により遊べる時間が異なる。）

15：30 集中タイム（20分間。学校の宿題やドリル、読書をする。）

16：00 おやつ

16：20 片付け・掃除

16：40 おわりの会（全体ミーティング。）

17：00 降所（各自決まった方法で降所する。附属小学校は通学範囲が広くバス帰りが多い。バス停まではスタッフが見送る。）

19：00 閉所（18:00-19：00 延長保育）

2 一日登所日の予定（長期休暇・学校の振替え休日）

時間に余裕があるため、お弁当を持ち小金井公園にお花見に出かけたり、地域の図書館に本や紙芝居を借りに出ることもあります。児童から提案を受け、事前に必要な準備のサポートをし、皆へ提案するよう促します。児童の提案を可能な限り叶えることで、自己肯定感を高め、次回の主体的な活動につなげます。

9：00~9：30 登所

9：30 ミーティング（全体で実施。リーダー・サブリーダーを毎日選出する。）

9：40 集中タイム（30分間。自由研究やドリル、課題、読書を行う児童が多い。）

- 10：20 自由時間（プレイパークや農園に行く。室内で遊ぶ児童もいる。）
- 12：00 昼食（班ごとにお弁当を食べる。）
- 12：30 集中タイム（30分間）
- 13：00 自由時間
- 15：00 おやつ
- 15：20 片付け・掃除
- 15：40 終わりの会
- 16：00 降所
- 18：00 閉所（17:00-18：00 延長保育）

<ミーティング>



<集中タイム>

各自、課題を決め自主的に学ぶ時間です。大勢の中でも集中して学ぶことを大切にしています。学生が中心となり学習支援を行います。夏季休暇中は、集中タイムを2回設けており、放課後児童クラブで独自に作成した算数のアセスメントプリントを実施しました。つまずきの箇所や間違え方の傾向を確認し、個別にフォローしていきます。



<掃除>

班ごとに担当を決め、毎日違う場所の掃除を行います。おやつで使用した食器洗いや窓掃除、トイレ掃除、床ふき、庭の掃き掃除等を行います。



<自由時間>

大学内にあるプレイパークでは木登りやザリガニ釣り、サッカーをしています。ハンモックを張ってのんびりすることもあります。大学の農園では、やぎの世話や収穫体験をさせてもらいます。収穫した野菜でポップコーンや豚汁等を作って食べ、食育につなげています。室内遊びでは、工作やごっこ遊び、ブロック等、様々な遊びを行います。遊びの種類の多様性は性別年齢に関係なく、興味がある

児童が普段とは違うグループ形成をすることがあります。勉強や運動といった限られた評価基準ではなく、多様な評価対象と基準があるため、児童の得意なことを引き出し、前面に出すことで、自己肯定感を高めるとともに、周囲の児童との関係性が改善するきっかけとなることもあります。



3 関連する組織との連携

1) 大学との連携

4月にはサークル募集に合わせ、大学生に向け放課後児童クラブの紹介を行いました。放課後児童クラブを活用し授業の実践や大学のプールで水泳教室を行いました。大学の教員により、月に一回行われる親子会の講師や、課題に合わせたスタッフ研修を行っていただいております。学部の4年生が卒業研究として教材づくりを企画しました。農園で植物を採取し、図鑑で調べて自分だけの「植物図鑑」を作りました。





2) 学芸の森保育園との連携

隣接する保育園にて太鼓を叩く体験や、行事に参加させてもらいます。お昼寝の様子や保育園の給食室を見学させてもらうこともしばしば。職員の方にお付き合いいただき、「ボール取らせてください。」と挨拶に行くこともあります。園児との遊びも異年齢交流の良い機会です。



3) 地域との連携

地域の大人の方が工作を教えに来てくれました。様々方が関わり子どもの世界を広げています。



<宿泊体験>

5月にこどもモードハウスにて3年生が宿泊体験をしました。保護者と離れ、協働して生活しました。



放課後児童クラブの運営に携わり、約1年が経ちました。家庭でも学校でもない放課後の時間だからこそできることが沢山あると感じています。放課後児童クラブの整備についてはまだ始まったばかりであり、このようなことを述べるのは時期尚早と存じますが、折角ですので将来の放課後児童クラブのあ

り方について、個人的な願望を述べさせていただきます。

まずは、児童と支援員の関係性を生かした積極的な問題解決の場としての活用です。放課後児童クラブでは、保護者でも学校の先生でもない第三者として、児童と長い時間を過ごし信頼関係を築くなかで、児童から相談を受けることも増えていきます。「絶対誰にも言わないで。」と言って家庭での不安や友人関係の悩みを打ち明けられることもあります。心身共に成長が著しく、成長過程におけるゆらぎや個人的な課題がみられる他、自由度が高く、集団生活を送る中だからこそころるトラブルもあります。個人の特性だけで無く、学年やクラスを超えた周囲との関係性や抱えている課題も見えてきます。

附属小金井小学校とも連携し、担任の先生と児童の情報共有を密に行っています。小学校での出来事を放課後まで引きずること（逆も）あります。小学校と放課後との様子の違いから、本人の抱えている問題と解決の糸口が見えてくることもあります。教員の負担を軽減するためにも、放課後の時間を活用した支援が出来ればよいと思います。

また、平日は児童が登所する放課後まで施設が空いています。児童が登所していない午前中のスペースと支援人材を有効活用できないかと考えます。現時点では、常勤が勤務し運営業務等を行っている他、保護者からの電話相談や、面談による相談にのっています。

放課後児童クラブは、児童の個性や家庭環境、継続した成長過程を理解している支援員がおり、普段から通い慣れている場所です。児童が困った時や、つまずいた時に、別室登校の場所として選択肢の一つとなれば、多様化する社会問題のニーズの解消にも役に立つのではないかと考えています。それは、同時に雇用の安定性にもつながります。長期休暇中と平日では、勤務時間の差が激しく、スタッフが集まりづらい状況にあるからです。

現在は保護者の就労等の状況や地域により、放課後の支援を受けられる児童と受けられない児童がいます。放課後の時間を安心・安全でより豊かなものにしようと、日々奮闘しているからこそ、教育格差の是正を目指し、全ての希望する児童が同様の支援を受ける機会を得られるような社会になることを望みます。

そのためには、放課後を支援する者の人材発掘と育成を継続して行い、専門的な知識を持った支援員が必要となります。

私自身「こども支援士（アフタースクール）」の講座を受講し、子どもの支援をスタートしました。これからも子どもの安全・安心で豊かな放課後のあり方を考え、切磋琢磨して参りたいと思います。

実践報告 2

「子どもにとっての『あそび』と『しごと』を考える」

奈良地域の学び推進機構 三宅基之

会員の自己紹介として三宅基之会員から送られてきたものですが、活動報告のコナーに掲載させていただきました。

東京学芸大学放課後児童クラブも3回目の夏を迎えました。朝から夕方まで、子どもたちと一緒に過ごすのはエネルギーがいりますが楽しみでもあります。子どものいろんな成長がみられる夏休みは、毎日がじっくりゆったり過ごす時間と小さなチャレンジの連続です。そんな中で、こどもにとっての「あそび」と「しごと」について、考える機会がありました。この夏休み初めの3日間、ギャング化した3年生男子と一緒に中庭のレンガ敷をしました。一人の児童が、昨年から一年越しに目標にしてい

た活動です。整備場所の計測、資材と道具の調達、現場での作業、掃除と片付け、など一連の工程と一緒にやったのですが、写真をみても通り本格的な作業です。（それでも2つほど工程は抜いてありますが。）3日間の作業が進む間には、自然発生的に仲間が増えたり減ったりします。土を掘り、高さを合わせ、モルタルを練りのばし、レンガを敷く、という作業は、単純ですが学生スタッフも経験がある人が少ないようで「うわー！凄いな。みんなそんなことができるのだね」と驚きと称賛の声を上げてくれます。背中それを聞きながら黙々と作業する子どもたちは楽しそうですし、誇りを感じているようにも見えます。そんな時、トム・ソーヤのペンキ塗りの場面を思い出しながら、子どもにとっての「あそび」と「しごと」ってなんだろうと考えました。



子どもが、みんなが遊んでいる自由時間に、この作業を選択するのはなぜだろう。

- 1) みんなのためになる：雨が降ると土が流れて泥だらけになる場所が少しましになる
- 2) 技術的におもしろい：おとながする土木工事と同じような内容の作業を体験できる
- 3) なかまと協力できる：一人でやるのではなく、助けあい協力して成し遂げる

「あそび」は子どもにとって重要な成長の機会だと考えますし、こどもは十分に遊べばいいと思います。

しかし、それと同じくらい家の仕事やお手伝いも大切だと考えています。遊んでばかりいるのが楽しいというだけではなく、誰かの役に立つ経験や、大人がやっているような少し難しいことに挑戦することは、子どもにとっては、遊びと同じくらいか、それ以上に楽しいものなのではないでしょうか。それを仲間と協力してやるというのであればなおのことです。私は子どもが「しごと」を楽しむのに大切だと思うことは、自分で選択できること、なにかの挑戦が含まれること、自分で楽しめたり他者を喜ばせたりできること、ではないか・・・、とここまで考えたところで気付きました。それは、おとなも同じことだと。放課後児童クラブの子どもたちのお陰で、猛暑の夏も仕事を楽しませていただいています。

※自己紹介：三宅基之 1965年生まれ こども支援士

奈良で教育コミュニティづくりの活動を始めて 20 年。奈良市青少年野外活動センターを拠点に自然体験教室のプログラム実施 10 年、奈良教育大学生と奈良市立東市小学校放課後子ども教室の運営を 10 年、東京学芸大学放課後児童クラブのマネジメントサポートを 4 年。

Ⅲ 子どものころ：Q&A

熊沢幸子（昭和大学名誉教授）

給食では残していいのに（小3女子）

Q

わたしは、すききらいがたくさんあります。さかな（ひもの）、トマト、にんじん、なす、キャベツ、ネギ、ゴボウ、なつとう。まだまだあります。おかあさんは、体にいいからたべなさいとおこります。でも、給食では、きれいなものは残していいことになっているのに。どうしたらいいですか。（まどか）

A

学校の先生はきれいな物は食べなくてもいいよ、お母さんは残さず食べなさいというのでは、まどかちゃんはこまってしまうのね。

まどかちゃんがきれいな物の中には体を元気にする物がたくさん入っているの。それを栄養（えいよう）というのだけれど。残さず食べると、もっともっと元気になるの。

お母さんはまどかちゃんのことを思って残さずに食べられるように、おいしく作っているの。学校ではきれいな食べ物もお友たちと楽しく残さずに給食を食べてほしいと思っているから、まどかちゃんが残さずに食べたら、みんなとてもうれしいと思うわ。学校では楽しく食べて、家では少しずつでも残さずにがんばって食べましょう。

きれいなものがたくさんあるみたいだけど、一度にぜんぶ食べられなくても、どれも栄養があるから、食べられそうなものから、少しずつでも食べられるようになったらいいの。魚も野菜（やさい）も体のために大切なものなのだから。

それにね、おなかがすいているのに、食べ物がなくて困（こ）まっている人がたくさんいるの。まどかちゃんがきれいで残したものは、すてられてしまうの。もたないね。

お母さんも学校の先生も残さずに食べてまどかちゃんが元気な体に育ってほしいと思っているのは同じなの。きれいなものをたくさん食べるのは大変だから、少しずつがんばってみましょう。食べ物には元気になる栄養があるから、残さずに食べると、もっともっと元気になるからね。

ウガンダ短信

暑中お見舞いを申し上げます。日本は、猛暑と台風と聞きました。十分ご自愛なさってお過ごしください。

図書館の新築工事のことですが、Kitgum 県の仕様書のミスで、工事が中断しておりましたが、日本政府（外務省）から、先日、「為替差益の活用」の申請（Kitgum 県が申請）に対して「許可」の裁定がありました。（為替差益とは、昨年 1 月に工事の契約が行われた時には、1 ドルが 3 0 0 0 シルでしたが、現在は、1 ドルが 3 7 0 0 シルとなっており、工事契約は全体で 9 万ドルですから、全体として、6 0 0 シル×9 万ドル＝5 0 0 0 万シル程度の差益が出ますので、それを活用するものです）。

新しい工事業者との打ち合わせが早く終わって、工事が早く再開してほしいところです。動きがありましたら、HP で紹介いたします。お元気で。

宮本宗一郎

自己紹介（到着順）

○杉澤茂二（葛城市教育委員会 教育長）

奈良県の杉澤茂二(63 才)です。

2015.3.31.公立小学校校長を最後に 38 年間の教職生活を終わり、奈良県立教育研究所学校経営アドバイザーを経て、2016.12.9.から奈良県葛城市教育委員会 教育長を拝命し、第三(?)の人生を送っています。

葛城市は奈良盆地の南西部に位置する人口 37,393 人の市です。市内に 2 つの中学校(989 名)・5 つの小学校(2395 名)と附属幼稚園(460 名)で、園児児童生徒数 3,844 名。園学校関係職員(345 名)、教育委員会職員(47 名)、職員数 計 392 名。

そんな葛城市の教育行政のトップを担っているわけですが、こうしてまとめてみて責任の重さを痛感しています。

現職の時に感じていた「教育長」と実際なってみた「教育長」は、全く違ったもので、仕事は多岐に及び、(自分だけの考えかもしれませんが)本来の学校教育関係の仕事に全力投球できないことが今の悩みです。

しかし、学校関係に絞ってみても問題は山積していて、気を抜けない毎日です。特に、今年の異常気象対応や働き方改革の問題、新学習指導要領対応など、重要な課題が山積しています。

スタッフを信じ、「逃げず、ごまかさず、諦めず」に、「フットワーク、チームワーク、ネットワーク」を大切に、職務を進めたいと思っています。

○青葉紘宇（東京養育家庭の会 理事長）

私はこれまで実務畑で過ごしてきており、研究活動には疎い人間です。携わってきた分野は少年院、障害施設、児童相談所、学童クラブ、そして里親に辿り着き現在に至っています。その中で、人はそれぞれ生きにくさを抱えても「喰う寝るところ、住むところ」が確保されると、かなりの課題が破綻しないで流れていく事実を目の当りにしてきました。もちろん、医療や専門の教育などを背景に持つての暮らしではありますが・・・。

この世には人の知恵では乗り越えられない難問がいくつもあります。それはそれとして暮らしが成り立っていれば、今を是として良いのではないかと考えるようになりました。親と死別した、障害を抱えて生まれてきたなど自分ではどうすることもできない事実に対して、誰をも恨むことはできません。これは決して諦めではなく、受け入れるしか方法はありません。

さまざまな葛藤を経て、結局のところ「足るを知って」暮らしを築くことになります。与えられた「定め」の中に自分を見出し、生きていて良かったと皆が思える、懐の深い社会になって欲しいと願っています。

子ども支援学会にそんな一面を期待しつつ、会員に加えさせていただきます。

○梶山久美子（東京成徳短期大学附属幼稚園 教頭）

私は成徳短期大学幼児教育科在学中、何回かの保育実習に参加し、子ども達の楽しそうな園での姿を見て、生涯子ども達と関わる保育者として、働く決意を強く持ち、今日まで35年継続し勤務し現在に至っております。子ども達が「楽しい幼稚園に明日も行こうね」と思える園にするため、全力で努めております。1年の行事は、春の入園式から始まり卒園式で立派に成長した園児を見ることができた時には、ホットすると同時に、充実した気持ちにさせられます。秋には運動会がありますが、日頃の練習の成果を十分発揮する園児の姿に、保護者も大変感激されています。毎年これらの行事を無事に経過することが出来ますのは、全職員の協力があってこそこのことと思いますので、これからもチームワークを大切にしていきたいと考えています。園では、グローバル時代に生きていく子どもたちに、外国人の保護者の方から母国での子どもたちの様子や食べ物についてお話しをさせていただいております。

また地域、近隣の方々との園の保育内容や話題の少子化問題等の情報交換や伝達など行っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

○吉野 真弓（育英短期大学 保育学科 准教授）

わたくしは、群馬県高崎市にある育英短期大学で保育者養成の教員をしております。専門は児童心理学です。現在の短期大学での担当教科は主に保育士資格に関する科目で、社会福祉、児童福祉、家庭支援論、保育実習（施設）です。また群馬大学では小学校家庭科指導法の非常勤講師をしております。保育者養成、教員養成にかかわっていて大変ありがたいことは、様々な学生さんからわたくし自身、新たな学びや発見が得られることです。そのことがわたくしの生きがいになっております。

わたくしの現在の主たる研究テーマは「重い病気や障害をもつ子どもがいる家族への支援」についてです。現在、難病の子どもたちは全国で約20万人いるといわれています。難病の子ども自身を支援するだけでなく、その家族全体に対してもどのような支援が必要か研究しております。

趣味はドライブです。もともと運転はそれほど得意ではなかったのですが、保育実習等の巡回指導をしているうちに運転が苦ではなくなり、時間があるときにドライブで遠出をすることが日々のストレス解消になっています。

多くの方との出会いがあってこそ現在のわたしがいると感じる今日このごろです。子ども支援学会でも素晴らしい出会いがあると願っております。今後ともよろしくお願ひいたします。

○河村圭（育英幼稚園副園長・特別支援教育士）

東京都目黒区にある1932(昭和7)年創立の育英幼稚園の副園長。

育英幼稚園の創立者である曾祖父渡邊熙一は、日本の初等教育の改革を志した沢柳政太郎先生に呼ばれ成城小学校で教鞭をとり、新教育の実践に情熱を傾けました。その時の同志は、「窓際のトットちゃん」で有名なトモエ学園の小林宗作先生や玉川学園を創立した小原國芳先生ら錚々たる先生方です。そのような経緯もあり、私の修士論文のテーマは「小原國芳の幼児教育論」とし、大学院では新教育についても学びを深めました。

幼稚園で色々な個性がある子どもたちと触れていく中で、発達障害などに興味を持ち、特別支援教育士の資格を取得し、昨年は、その資格を生かし、都内の小学校2校に特別支援教室巡回相談心理士として携わりました。

また、子どもたちのあそびの発展のために、おもちゃコンサルタントという資格も取得しました。そこで、けん玉のパフォーマーの方々にも出会い、今年7月には広島県の廿日市市で行われたけん玉の世界大会にも出場しました。

副園長ですがまだ30代です。子ども支援学会の調査研究委員会で毎月、深谷昌志先生から直接研究についてのお話を伺えることは貴重な経験になっています。この学会で改めて研究のやりかたを学び、子どもたちへ最高の支援をできるように努めていきます。どうぞよろしくお願ひします。

○塚本文子(東京都特別支援教室巡回相談心理士)

東京都の巡回相談心理士として、都内の公立小学校を巡回しています。

東京都は平成28年度より順次、発達上に課題を抱えた児童を支援する「情緒障害等通級指導教室」を「特別支援教室」と名前を変えて都内すべての公立小学校に設置しました。それまで保護者が指導教室の

ある学校まで送り迎えをしていましたが、現在は校内で毎週二時間、特別支援教室で個別学習を受けたり小集団でのソーシャルスキルトレーニングを学んだりしています。複数の指導教員は拠点校から毎週巡回をして各校十数名の子供たちを指導しています。

私はその教室での指導方法を助言したり、児童のアセスメントをしたりしています。

また在籍級での対象児童を行動観察し、担任教員とクラスでの対応について話し合うことも多くあります。

発達の課題を抱えている子どもたちは、読み書きに苦手さがあつたり、友達と上手く付き合えなかつたり、自分の感情を調整することが苦手だったり、学校生活を送ることに大変な労力を使っています。周りの人たちが彼らの特性を理解してかかわれるように、彼らも自分を知って自己調整ができるように、

その仲介役を担いながら大好きな子どもたちに支えられて生活をしています。

句会むさしの

○秋の日や背伸び大きく猫の影

安田 勝彦

暑い夏も終わり、日の影も秋となります。背伸びをする猫の影も大きな影となります。まだ暑い日が続きますが、自然は、秋を告げています。猫の影にご注目。

○部活終へ てんこ盛りなる かき氷

森永 徳一

季語は、「かき氷」です。部活終えて、かき氷を食べるサッカー部の仲間たちが、商店街の木製の椅子を囲んで、談笑する男子高生。私も、友達とてんこ盛りのかき氷を食べたことを思い出しました。（猛暑の吉祥寺駅近くの商店街）

○里の秋ふうさんフルート吹いている

上島 博

いつだったか、隣室から妻の練習するフルートが聞こえてきた。退職後の趣味にと始めたもので、ときどき外れる調べを聞いていたら、ふいに「ふうさんフルートふいている」というフレーズが浮かんで、一人で可笑しがっていた。

今年も、もう少し涼しくなったら、妻の奏でる「里の秋」―出征した父の無事の帰還を願う歌―をしみじみと聴きたいものだ。

V 今月の本棚

吉川 徹 「日本の分断」(光文社、光文社新書 2018年 788円)

深谷 昌志 (東京成徳大学名誉教授)



○ 2018年問題の発生

大学関係者の中で「2018年問題」への関心が集まっているが、これは18歳人口の減少を底流としている。団塊ジュニアの生まれた平成4年の205万人をピークに、18歳人口は減少を続け、平成10年の155万を経て、平成20年代後半は120万程度となる。そして、今後も平成30年の118万から、35年の110万、40年の103万と人口の減少が続く。

なお、平成29年度の場合、高校卒業生の進学率（過年度卒業生＝浪人生を含めて）は80.6%に達する。といっても、専門学校が22.4%、短大4.7%で、4年制大学進学者は52.6%となる。そこで、18歳人口を120万人、4年制大学進学率を50%と押さえると、現在の60万人の大学進学者数が2013年には5万人ほど減って55万人、2018年に51.5万人と減少していく。現在でも、私立大学の4割が定員割れを起こしているが、今後、定員1000名程度の中規模の学部や大学が40校程度、学生募集の停止に追い込まれることを意味する。

○ 入学定員の1.2倍

本稿は2018年の9月に執筆しているが、地方の私立大学の国立大学への統合などの大学間の動きを仄聞するが、大学閉校の噂は耳にしない。というより、2018年度の入試では、トップランクの大学の入試倍率が高まるだけでなく、中レベルといわれる大学でも受験生の増加が目立つといわれる。少なくとも閉学の危機は遠のいた印象を受ける。

受験生減の状況の中で入試の激化という矛盾がどうして生じたのか。文科省は平成27年7月に「私立大学等経常費補助金の取り扱い」に関する通達を発している。4万5千人の学制定員の7割強が3大都市圏の大・中規模大学に籍を置いているから、地方創生の意味も踏まえて、入学定員の厳格化を進めたいという。

「定員の厳格化」といわれても、大学の入試関係者以外にはピンとこないと思う。これまで多くの大学の入試では「1.2」は絶対だった。入学定員が100名の学部の場合、121名入学となると、文科省からの補助金を1円も得られなくなる。もっとも、多くの大学は学生の授業料収入を中心に運営され、文科省の助成金は収入の1割強にすぎない。といっても、学生数の多い日大や早稲田大などでは補助金は90億に達する。

「定員の1.2」の確保はそれ程簡単ではない。受験生は複数校を受験しているので、上位の大学に合格すると滑り止めの大学を辞退する。そうした状況なので、入学定員100名の中規模学部の場合、辞退を3割と見込み、130人を合格、30人を補欠とする。しかし、実際の辞退者が9名だと、「1.2の枠」を1名オーバーするが、逆に、辞退者が30名を越えると、定員確保が困難になる。なお、私立大学の4年間の学費は、医学部部の2245万は例外として、文科系が386万、理科系522万、その他の学部502万である。一人の学生が500万納付するのだから、どの大学でも、「1.2」のぎりぎりまで学生を入学させようと努力を続ける。

○ 少子化の中での入試激化

先の文科省の通達に戻ると、平成28年の入試から入学定員超過率を1.20から1.17に、さらに29年は1.14、30年から1.10を入学者の基準とすることになった。加えて、定員を超えた入学者数は助成の金額を削減するという規定も加わった。限りなく、入学定員通りに入学者を絞らせる政策である。

こうした政策転換の影響を表1は示している。2015年と比べ2017年の入試では、早慶で4千人、MARC（法政は大学改組で大幅な定員増があり、対象外とした）で5千人、日東駒専で7千人と入学者が減少している。その結果、早稲田では6.2倍（2015年）から8.4倍（2017年）に、明治大も4.9倍から5.4倍に入試が激化している。

表1 大学入学者数の変化 (人)

	2015年	2017年	変化
早稲田・慶応	24,423	21,313	−4,110
明治・青山・立教・中央	39,634	34,499	−5,135
日大・東洋・駒沢・専修	23,582	16,221	−7,361

入試状況の分析が本稿の目的でないから詳細は割愛したいが、このように、トップランクの大学が入学者を絞るので、本来なら、上の大学に入れるはずの学生も一ランク下の大学を志望する。その結果、中堅大学の入試も厳しくなり、さらに、定員割れを起こしていた大学にも学生が志願するようになる。そうした結果、全体として入試が激化したというのが、2018年の入試状況であろう。しかし、この政策は一回だけ有効なカンフル注射で、こうした事態が鎮静化する2020年頃には、2018年問題が再燃するのはたしかであろう。

○ 残された5割の問題

前置きが長くなってしまった。「日本の分断」の中で著者・吉川徹（大阪大学教授）は、Fランクの大学卒であっても、「大卒学歴を持っているだけで、労働市場の半分より下に落ちるリスク」を深刻に考えなくてすむ「ガラスの床」の上にいると指摘する。そして、どの大学に入るかという「学校歴の競い合い」は、「どちらの大学名」がその後の人生に「有利にはたらくか」という「獲得競争ゲーム」だが、このレースに全体の半分を占める非大学進学者は全く参加できないでいる。そうした意味では、日本の社会は、「下半分にはほぼ均質な非大学卒層がいて」、その上に、「入試偏差値で輪切りにされた大学の学校歴がのった」形で、それは、「スポンジケーキのうえにミルフィーユがのった洋菓子」に似ているともいう。

しかも、大学卒と非大卒との間には、「①境界が顕在化」し、「②成員が固定化」され、③「集団間関係の断絶」した構造が成り立ち、④「分配の不平等」が強まり、その結果、社会構造の「分断」が生じている。しかし、多くのマスコミはミルフィーユ間の問題に注目するだけで、半数を占めるスポンジケーキの存在を無視していると指摘する。いわれてみると、2018年問題は、全体の中では少数のミルフィーユの課題であるのに気づく。

○ 「レッグス」という存在

これまで、「有効性の怪しい大学学歴に、人生の序盤で金と時間を費やすのではなく、自分の将来設計に必要な知識と技能を手早く身に付け社会に出る」のが非大学卒の長所だった。たしかに、オートバイの整備工やすしの職人になるのに、重い学歴は不要で、

「レッグス＝軽い学歴—Lighty Educated Guys—」が彼らの特性だが、かつての社会で尊重された職人芸が大量生産・消費やオートメーション化の流れの中で衰退していく。かつての「壮年非大卒男性」は「貢献に見合う居場所」があった。しかし、「若年非大卒男性」には「不利な境遇、長いこの先の道のり」が待ち受けるという。

筆者は40年程、都心部のオフィスビルにある同じ理容室に通っている。ビル街なので、会社のお偉いさんが会議直前に利用してもそうは見えないし、3週間後でも髪型の乱れはないという神業の持ち主である。収入が多いはずはないが、一家を支え、充実した人生を送ろうとしている。しかし、ビルの近くにもQBハウスが登場し、理髪料5000円の利用客は減少している。加えて、彼の技術を学ぶ弟子の存在がなく、自分の技も一代限りと語っている。

彼もレッグスの一人だが、地震に強い高層ビルが立ち、交通機関が時間通りに運行され、スーパーに新鮮な食料品が並ぶ。こうした市民生活を支えているのは地味な「レッグス」たちの働きである。しかも、レッグスたちは「大きな資産を持てるかどうかは、本人の努力次第」と努力を信じる人たちだという。それだけに、「社会の半分を支える非大卒層こそが日本社会の宝」なのだが、レッグスの収入は減少し続けているらしい。これは、日本社会の地番沈下を意味するのであろう。浅学の話だが、本書を通して、あらためて、日本社会を支える5割の存在に気づかされた。それと同時に、この5割の階層の子育てをどう考えるかも子育て支援の重要な視点だと思った。

VI イベント情報

1 子ども支援学会秋季 フォーラム・2018

5日（土） 午後1時～5時

於：[東京学芸大学](#) S204 教室

総合司会：清 文枝（テレビ朝日アスク）

趣旨説明：深谷昌志（東京成徳大学名誉教授）

第1部 パネル討議 「子ども支援の隘路となるもの」

司会：瀧口 優（白梅短期大学教授）

1. 北区わくわく広場の活動から 安田勝彦（北区わくわく広場代表）
2. 天理市の子ども支援活動から 市本貴志（天理市議会副議長・地域支援センター副理事長）

第2部 ワークショップ「アロマザリングの中での養育を考える」

司会：中山哲志（東京成徳大学教授）

1. 基調提案：アロマザリングとは何か 根ヶ山光一（早稲田大学教授）
2. パネル討議：パネリスト
①根ヶ山光一（早稲田大学教授）
②日高真智子（千葉県里親会副会長）
③青葉紘宇（東京養育里親会理事長）

2 第2回 ワークショップ テーマ 「リジリエンスを考える」

- 1 日時 2018年10月13日 pm2~4
- 2 場所 東京八重洲北口 ルノアールプラザ 5階—2号室
- 3 講師 深谷和子（東京学芸大学名誉教授）

3 第3回 ワークショップ テーマ 「多国籍化する学校」

- 1 日時 2018年12月1日 pm2~4
- 2 場所 東京八重洲北口 ルノアールプラザ 5階—未定
- 3 講師 土田雄一（千葉大学教授）

編集後記

..... (ニューズレター委員会)

「風の便り」6月号をお届けいたします。皆さまのご愛読とご感想など、ご自由なご投稿をお待ちしております。

お互いの「顔が見える学会」を標榜して発足した「子ども支援学会」ですが、ウェブ上で会員をつなぐ大事なツールの一つは、季刊の「風の便り」（3で割れる月の初旬発行）ではないでしょうか。アカデミズムも失わず、でも皆がエンジョイできるステージを創ればと考えております。とりわけ「巻頭」の「子ども支援活動報告」の欄に今回は2つの力作をいただくことができました。これからも、会員の方々から、大小の実践記録をお寄せいただきたいと願っております。

また、会員の自己紹介の欄も、さまざまな分野で活動されている会員の動向を知ることができ、楽しく読ませていただきました。今後もお気軽にご投稿ください。学会フォーラムでお会いするのを楽しみにしております。

(深谷和子)

投稿先：kazukofukaya@nfty.com

<編集委員>

深谷和子・中園孝信・湯浅俊夫・上島博・大高志芳・三枝恵子・清(池田)文枝・土田雄一・吉野真弓
(以上)

<風の便り 第3号目次>

- | | | | |
|----------------------------|-------|-------|--------|
| 今月の子ども | 今月のうた | 中園孝信 | ゆあさとしお |
| I 子ども研究ノート 「自主協同学習」 | | 高旗 正人 | |
| II 実践報告 | | | |
| 1 「放課後児童クラブの可能性」 | | 和田奈々子 | |
| 2 「子どもにとっての『あそび』と『しごと』を考える | | 三宅 基之 | |
| III 子どもの心 Q&A | | 熊澤幸子 | |
| IV 会員談話室 | | | |